

日本史B

【解答】

I

解答 1	解答 2	解答 3	解答 4	解答 5
イ	カ	エ	ク	エ
解答 6	解答 7	解答 8	解答 9	解答 10
ア	カ	ウ	ア	キ
解答 11	解答 12	解答 13	解答 14	解答 15
イ	イ	カ	ウ	オ

II

解答 A	解答 B	解答 C
京都所司代	一国一城	末期養子
解答 D	解答 E	解答 F
新貨条例	郵便	フランス
解答 G	解答 H	解答 J
明六社	福沢諭吉	ヤルタ
解答 K		
ポツダム		

III

A
分国法： 戦国大名が領国の支配、家臣団統制のために制定した法令で、壁書、家法などの呼称もある。幕府法や守護法を継承しつつ、武家の家訓や国人一揆の取り決めに織り込んだ法などもみられ、中世法の集大成的な性格をもつ。今川家の仮名目録、伊達家の塵芥集などがある。
B
大正デモクラシー： 主として大正期に高揚した自由主義・民主主義的な風潮。第一次世界大戦前後の世界的な民主主義的風潮は、日本にも大きな影響を与え、吉野作造が唱えた民本主義思想が拡大。政治の民主化を求める声が強まり、普選運動や社会・労働運動、教育運動も活発化した。

【学習アドバイス】

本学の入試は、例年選択科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となっている。各科目にかける時間配分は、出題の分量にもよるが、1科目につき50分前後の時間を解答時間として考えるべきであろう。

2017年度の問題は、11世紀の平安時代からポツダム宣言受諾までが出題され、古代・中世・近世・近代とバランスの取れた出題内容となっている。分野では政治史が多く、次いで外交史・文化史・社会経済史で構成されている。

本学をめざす受験生は、全時代の学習が必要不可欠となる。政治史中心の出題になっているが、政治史に偏ることなく、政治史と関連させて外交史・文化史・社会経済史の学習が大切になってくる。

出題形式は、選択式・記述式が併用されている。選択式は語句の空欄補充・年代配列、記述式は空欄補充・100字程度の論述に採用されている。過去には、正誤判定問題や記述式による誤文訂正の出題もあったので注意しておきたい。なお、問題のレベルは、高校の教科書・用語集の範囲内の標準的なものとなっている。特に選択式の語句空欄補充問題では、選択肢にまぎらわしいものが含まれているので、確実に正解が導き出せるよう、普段からの丁寧な学習が大切である。

日本史で高得点を取るためには、教科書、塾や予備校のテキスト、用語集を活用しながら、語句・人名などの用語に関して、「誰が」「いつ」「どこで」「何をしたか（なぜそうしたか）」を重点に置きながら学習を進めていくとよい。そして最後に「どのような結果になったか」「どのような影響を与えたか」まで吸収することで、さらに知識・理解が深まっていくだろう。そのような学習は、慣れるまでは時間がかかるかもしれないが、「継続は力なり」というように、継続することで必ず学習のペースや効率が上がってくる。

吸収・理解した知識を使えるようにするためには、大学入試用の問題集に積極的にトライして試みるのが大切である。実際の大学入試問題を解くことで、「出題の仕方がわかる」だけでなく、新たな事項も吸収できるようになる。また本学では、年代配列問題が出題されている。この出題形式は「知っている年代を基準に前後を特定する」「何世紀の前半・中頃・後半か」「何時代か」「為政者が誰の時か」を特定することで正解が導ける。このような学習は語句の空欄補充・正誤判定問題にも関連、直結しているので、問題集を利用してさらに実力を磨いていこう。

具体的にはセンター試験対策の問題集を用いるのが最も効果的である。なぜならセンター試験の問題は、語句の空欄補充・年代配列が必ず出題されており、本学の選択式の問題に類似しているからである。問題演習を行った際、間違った箇所は必ず教科書、塾や予備校のテキスト、用語集等で再確認しておこう。なお一問一答形式の問題集は、年代配列問題・正誤判定問題にはあまり効果は期待できない。

本学では、100字程度の論述問題が2題出題されている。本学の論述問題は、「原因」「理由」ではなく「事項」についての論述であるため、吸収した知識を「誰が」「いつ」「どこで」「何をしたか（なぜそうしたか）」「どのような結果になったか」「どのような影響を与えたか」という形にならぬとよい。論述問題は一朝一夕での対応は難しいので、早めの着手が望ましい。論述問題のトレーニングとして、高校や塾、予備校の先生に基本的なレベルの用語の課題を出してもらい、添削指導をしてもらうのが最も効果的な論述対策である。

本学では、記述式の空欄補充問題も出題されている。出題されている語句は、教科書の太字の箇所である。正確な漢字での解答を求められているので、普段の学習から手を動かして語句を覚えていこう。

以上のような対策を着実に積んでいけば、必ずや合格への道が開けるはずである。